女性の雇用拡大が建設産業界

司会（建通新聞社）　滝　麻友

東海建設　伊藤　泰栄さん

東海緑化　平田　昇美さん

ネックは「時間が不規則」　伊藤

子育てとの両立に不安も　渡邊

女性でもできるとPRを　平田

子どもにも現場見学を　柴田
社会貢献がキーワード　平永

司会　平永さんが委員を務められている土木学会のダイバーシティ推進小委員会での議論を紹介してください。

平永　男女共同参画を含め、ありとあらゆる立場におられる方、男女も、障害をお持ちの方も、外国籍の方も、本人の努力とは関係ない壁によって、選択の自由を奪われることがないような社会、業界、学会にしていこうという考え方を基本にして、さまざまな施策を考えていると思います。委員会の男女構成比率はおよそ2対3で、男性にも入っていただいています。「女性が」というよりも、男性と女性の両方の視点でどういう学会にしていくかを考えているのがポイントだと思います。

司会　そもそも業界に女性が入って来ないことについて、その原因はどこにあると思いますか。

伊藤　大学進学を考える時に、自分で調べない限り土木や建築について学校では何も情報を提供してくれないことが大きいのかなと思います。まず花形の医学部、薬学部などを受けにいってしまいます。土木や建築は、そんなに一生懸命勉強しなくても入れてしまうという点でも人気がないのかなという感じがしました。

司会　高校のクラスの中で、土木や建築を選ばれるのはどのくらいの人数でしたか。

伊藤　理系の40人のクラス4つ全部合わせても1人2人くらいだったと思います。学校の先生になるとか、生活の安定を考えて大学を選ぶ人が多かったです。土木や建築は安定感が薄いという印象を持たれてしまっています。やりがいとかがなく、安定しているということが大切だったようです。

柴田　私の周りでも建築や土木を選ぶ人は少なかったと思います。人それぞれの好みですから、やりたいことが建設業ではない人が多いのではないでしょうか。

渡邊　建設現場というのは、外から見たら何をやっているか分からないと言う意見自体知らないと思います。建物をどうやって造っているかなんて考えない人が多いと思います。鉄筋屋さんや、とびさん、大工さんは誰でも知っていますけど、他に何十何百という職種の方たちがいて初めて建物ができるのに、現場の中で何をやっているか分からないからそういう仕事があることすら知らないし、知ろうきっかけもないだろうと思います。建築科でも授業で建物を造る流れを学びますが、細かい職種までは勉強しませんが、こんなにやりがいがあるとなんだとか分かってもらうことが必要で、つまり20代くらいまでは分かってもらえると思います。

司会　渡邊さんは将来を決める時に先生に紹介してもらったのですよね。

渡邊　そうです。でもうちの会社は、新卒だけでなく中途でもいいので、年齢層は関係なくアピールした方がいいと思います。

柴田　私はもっとどこからアピールしたらいいのかなと感じます。社会的にやはり建設現場で働いている人は怖いというイメージがあるので、私もこの会社に就職する時に親から反対されました。外で働く方は真っ黒で、体格のいい方ばかりなので、怖いというイメージがあります。男性ばかりのところに入るのを心配されましたが、入ってみればそれほど優しい方ばかりです。

司会　これらを改善するにはどういうことが必要でしょうか。

平田　女性でもできるということをもっとPRしてもいいのではないかと感じます。それから外で仕事をしていると機械に乗せてほしいという子どもがたくさんいます。私は乗りたいと言われれば、ヘルメットを被らせてエンジンを切って動かないようにして乗せてあげますが、すごく喜ぶんですね。子どもは働く車が好きだと思うのです。そういうことにどんどん興味を持ってもらうことが大切なのではないでしょうか。現場の中に一般の方にもっと見ていただくことも大切だと思います。

伊藤　ものづくりというのはすごく面白いことなんだということが分かってもらえれば、多分男女関係なく若い人たちは来てくれると思います。建設業の内容をもっと教えて、こんなにやりがいがあるとなんだとか分かってもらうことが必要で、つまり20代くらいまでは分かってもらえると思います。

司会　渡邊さんは将来を決める時に先生に紹介してもらったのですよね。

渡邊　そうです。でもうちの会社は、新卒だけでなく中途でもいいので、年齢層は関係なくアピールした方がいいと思います。

柴田　私はもっとどこからアピールしたらいいのかなと感じます。社会的にやはり建設現場で働いている人は怖いというイメージがあるので、私もこの会社に就職する時に親から反対されました。外で働く方は真っ黒で、体格のいい方ばかりなので、怖いというイメージがあります。男性ばかりのところに入るのを心配されましたが、入ってみればそれほど優しい方ばかりです。

司会　これらを改善するにはどういうことが必要でしょうか。

平田　女性でもできるということをもっとPRしてもいいのではないかと感じます。それから外で仕事をしていると機械に乗せてほしいという子どもがたくさんいます。私は乗りたいと言われれば、ヘルメットを被らせてエンジンを切って動かないようにして乗せてあげますが、すごく喜ぶんですね。子どもは働く車が好きだと思うのです。そういうことにどんどん興味を持ってもらうことが大切なのではないでしょうか。現場の中に一般の方にもっと見ていただくことも大切だと思います。

伊藤　ものづくりというのはすごく面白いことなんだということが分かってもらえれば、多分男女関係なく若い人たちは来てくれると思います。建設業の内容をもっと教えて、こんなにやりがいがあるとなんだとか分かってもらうことが必要で、つまり20代くらいまでは分かってもらえると思います。高校や大学を決める時など、人生の転機になる時を狙ってPRに行けば、きっと建設業は魅力的だと思